

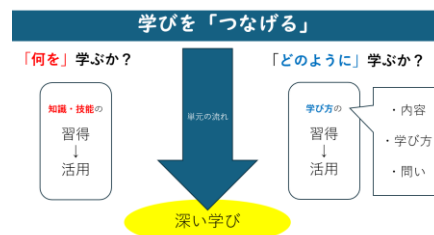
令和 8 年度 校内研究 ～「学びをつなぐ 人とつながる 深い学びをめざして」～

本校では、令和 8 年度の校内研究のスタートにあたり、教職員全体で研究の方向性と目指す子どもの姿を共有する研修を実施しました。

今年度も引き続き、「学びをつなぐ 人とつながる 深い学びをめざして」という研究テーマのもと、授業改善に取り組んでいきます “深い学び” とは、単に知識を身につけることではなく、学びどうしがつながり、活用されていく中でこそ生まれるものだと考えています。そのために、習得したことを活用する場を設定することを大切に、単元を構成しようと再度確認しました。

昨年度は、つけたい力を明確にした単元構成や教材研究、学習過程の共有を進め、子ども・教師ともに基礎的な力の積み上げを図ってきました。今年度はその成果と課題を踏まえ、学びを「委ねる」実践を全体でそろえ、確かなものにしながら研究を進めていく段階と位置付けています。

そのため、年度初めの本研修では、「教える」と「委ねる」の関係について整理しました。一斉授業による指導と、教師が伴走しながら子どもに学びを委ねる授業は対立するものではなく、相互に補完し合うものです。教科の資質・能力、学び方を確実に「教える」ことを土台としながら、子どもが主体的に学ぶ場面へと段階的に「委ねる」ことの必要性を共通理解し、単元の中に位置付けていくことを確認しました。



いつ「教える」「委ねる」?

1 学期	教える	委ねる
2 学期	教える	委ねる
3 学期	教える	委ねる

👉 学期ごとに「教える」→「委ねる」割合を
だんだん増やしていく

また、1 学期から 2 学期、3 学期へと進む中で、子どもの実態に応じながら段階的に「委ねる割合」を高めていきます。1 学期は学び方や基礎的な力の定着を重視して「教える」場を中心に位置付け、2 学期にはその基盤をもとに「委ねる」場を広げていきます。さらに 3 学期に

は、子どもが自ら学びを進める姿を目指し、単元全体を通して主体的に学ぶ場を充実させていきます。

本校が目指すのは、子どもが自ら学び方を選択・調整しながら学びを進める姿です。今後も、「教える」と「委ねる」の適切な往還を図りながら、子どもが主体的に学び続ける授業の実現に向けて、校内研究を推進してまいります。

